東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2010年8月27日

ザカート(喜捨)

親愛なるムスリムの皆様。ザカートは、崇高な私たちの教えイスラームの、五つの基本のうちの一つです。財産に関するイバーダになります。理性を持ち、成熟期に達し、借金や基本的支出を超える財産を持っている全ムスリムにとって、この財産を一年以上保持していれば、ザカートは義務になります。ザカートを支払うことは、信者の、恵みを得ている者の、そしてアッラーを畏れるしもべの、最も重要な特質といえます。この観点から、崇高なるアッラーの「ザカートを支払いなさい。」という命令に従うことは、成熟した信者であること、アッラーへの愛情が財産への愛情よりも勝っていることのしるしです。崇高なるアッラーは、ザカートを支払うことの必要性を次のように明らかにしておられるのです。

「誠にあなたがたの（真の）友は、アッラーとその使徒、ならびに信仰する者たちで礼拝の務めを守り、定めの喜捨をなし、謙虚に額ずく者たちである。」（食卓章第５５節）

「礼拝の務めを守り、定めの喜捨をしなさい。あなたがたが自分の魂のためになるよう行ったどんな善事も、アッラーの御許で見出されるであろう。誠にアッラーは、あなたがたの行うことを御存知であられる。」（雌牛章第１１０節）「人びとは、交易や商品に惑わされないで、アッラーを念じ、礼拝の務めを守り、定めの喜捨に怠りなく、かれらの恐れは心も目も転倒する日である。」(御光章第３７節)

親愛なるムスリムの皆様。ザカートは、崇高なるアッラーが、豊かな人の財産から貧者へと取り分けられた権利なのです。クルアーンでは、「またかれらの財産には、乞う者や、乞うこともできない困窮者たちの権利があると認識していた。」（撒き散らすもの章第１９節）と示されています。ザカートを支払う人は、権利の持ち主にそれを払うことでアッラーのご満悦を得て、さらに財産の感情や罰といった恐れから救われることができます。なぜならザカートが支払われなかった財産は、最後の審判の日、崇高なるアッラーの御前で恥じ入り、大きな罰を受けることになるのです。だから信者は、ザカートを、一切の物質的な見返りを求めることなく支払うのです。これによって、アッラーに預けられた財産の感謝が行なわれます。感謝が行なわれた財産は、豊かさをもたらすのです。崇高なるアッラーは、ザカートが支払われた財産に対し、この世とあの世において何倍もの見返りがあるということを、次の節で明らかにされています。「言ってやるがいい。『本当にわたしの主は、そのしもべの中から御心に適う者に、御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。』」（サバア章第３９節）

「アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば、ちょうど１粒が７穂を付け、１穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に、倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。」

ムスリムの皆様。「かれらの財産から施しを受け取らせるのは、あなたが、かれらをそれで清めて罪滅しをさせ、またかれらのために祈るためである。本当にあなたの祈りは、かれらへの安らぎである。アッラーは全聴にして全知であられる。」（悔悟章第１０３節）という節で明らかにされているように、人における欲望や吝嗇といった悪い性質を取り除き、気前のよさ、善、人助けや善行を行うという意思といったよい性質を与えるのです。人を、善を施すことに慣れさせ、慈しみの気持ちを発展させます。ザカートは、富が無駄になることを防ぎ、有効に活用される場を生み出します。さらには失業問題を解消する手助けとなるのです。富裕層と貧者の間の断絶を防ぎ、貧困の解消、富の公平な分配、社会の公平さと相互援助を助けます。崇高なるアッラーのご満悦を得て、やすらぎを得るため、私達の財産からザカートを支払いましょう。偽善や見せ掛けにならないよう、貧しい人の尊厳を傷つけない形で支払いましょう。行なわれるイバーダが、アッラーのご満悦にふさわしく、純粋な意志で実行されれば、それは受け入れられるのです。